



杵築市スポーツ推進計画

スポーツで杵築市を元気に！



2023年10月1日

杵築市教育委員会 文化・スポーツ振興課

目次

第1章 計画の策定について・・・・・・・・・・ 2

- (1) 社会環境の変化と課題
- (2) 計画策定の目的
- (3) スポーツをすることによる効果

第2章 杵築市の現状と課題・・・・・・・・・・ 8

- (1) スポーツへの参加及び好意性について
- (2) スポーツ施設について
- (3) 競技スポーツで躍動する選手たち

第3章 これからのスポーツ振興施策・・・・・・・・ 13

- (1) スポーツへの参加率向上
- (2) 施設の整備・適正管理
- (3) 競技スポーツの推進

第 1 章 計画の策定について

(1) 社会環境の変化と課題

昨今、私たちを取り巻く社会環境は大きく変化し、利便性の向上、情報化の進展、労働形態の変化などにより便利で快適な生活ができるようになった反面、地域社会における関係性の希薄化とともに運動不足やストレスの増加がこどもの体力低下や人々の健康不安の原因にもなっています。また、少子高齢化の進展は生産年齢人口の減少や医療費の増加などを招き、経済や社会保障において深刻な状況となりつつあります。

加えて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、テレワークやオンライン利用を加速させ、スポーツ指導などにおいても、新しい生活様式への対応が求められるといった環境の変化もありました。

①国の動向

スポーツ庁は、「スポーツ基本法」の趣旨を踏まえ、スポーツを通じ「国民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活」を営むことができるスポーツ立国の実現を最大の使命とし、平成 29 年 3 月に「スポーツ基本計画」を策定しました。スポーツ基本計画は、スポーツ基本法第 9 条の規定に基づき、スポーツに関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るために定められたものであり、同法の理念を具体化し、国、地方公共団体及びスポーツ団体などの関係者が一体となってスポーツ立国の実現を目指す上での重要な指針となるものです。

②大分県の動向

大分県では、平成 21 年 7 月に「第 1 期スポーツ推進計画」を策定し、「県民総参加、スポーツ力を高め、明るく元気な大分の創造」の基本理念のもと、各種施策を展開してきました。ラグビーワールドカップ 2019 の開催により、多くの県民が会場やテレビで試合を観戦したり、ボランティアとして参加したりすることで、「みる」「ささえる」スポーツの取り組みが一層浸透しました。

施設面においても、平成 31 年 4 月に県民待望の施設であった武道をはじめとする屋内スポーツの拠点となる県立武道スポーツセンターが竣工し、多くの全国レベルの大会の開催が可能になりました。

今後も、大分県がスポーツを推進していくにあたっては、これまでの取組の成果・課題を検証するとともに、スポーツを取り巻く情勢の変化を的確に捉え、施策の充実・発展させることが必要なことから、今後の大分県におけるスポーツ推

進の基本的な方向性を示した「第2期大分県スポーツ推進計画」を令和2年に策定しています。

③ 杵築市の動向

杵築市では平成21年度に『杵築市スポーツ振興計画』（期間：平成22年度～平成31年度）を策定し、国の「スポーツ振興基本計画」に掲げられている生涯スポーツ社会の実現を目指し、各種施策を展開しました。ラグビーワールドカップ2019の県内開催や東京オリンピック2020の開催、聖火リレーイベントの実施により、多くの市民はスポーツに親しみを感じることができ、スポーツに対する意識が向上しました。

しかし、令和2年に発生した新型コロナウイルスの感染拡大は、多くのスポーツ大会・イベントを中止に追い込み、市が運営する各種施設サービスについても利用制限せざるを得ない状況になるなど、スポーツ振興を推進していくうえで強い逆風となっています。新型コロナウイルスとの闘いは長期になることが見込まれていることから、これからは、コロナ禍を前提としたスポーツ振興の推進が求められています。

（2）計画の期間・目的

①期間

将来の杵築市のあるべき姿を見据えた「第2次杵築市総合計画 後期基本計画」においてスポーツ振興施策を「4-4 人が育ち、輝くまちづくり」に位置付けています。今回策定する『杵築市スポーツ推進計画』は計画期間を令和5年10月1日～令和15年9月30日までの10年間とします。

②目的

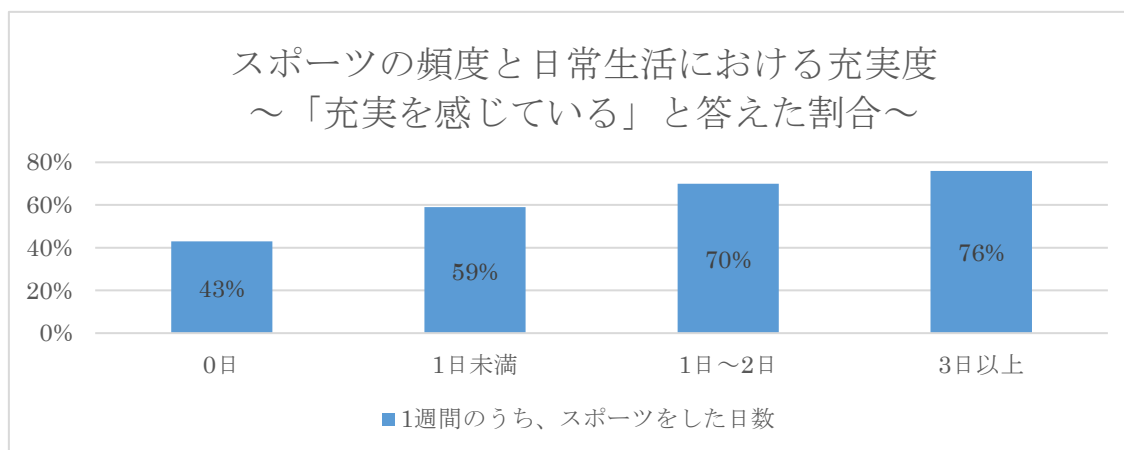
計画策定により、短期ではなく中長期的期間を見据えたスポーツの振興を図ります。スポーツの種類やスポーツに関わる人が多様化する中で、こどもから高齢者、障がいのある方、初心者からトップアスリートまで、全ての市民が様々なスポーツに関わり、生きがいを感じることができるよう、多様化する市民のニーズを把握し、市民のスポーツ活動の推進や競技力の向上、スポーツ大会の開催、スポーツ合宿の誘致、また競技に必要な施設の維持・建設などに取り組むことを目標とします。

（3）スポーツをすることによる効果

運動不足を感じている人でも、「スポーツをすることは何となく身体にいいと思っているけど、自分にどんなことが起きるのか」ということは意外とわからない人も多いのではないのでしょうか。今回、「充実度」「心の健康」「子ども」「体の

健康」の4つのカテゴリーごとに、様々な調査結果や研究結果から、具体的にイメージできる「数字・データ」をピックアップして、「スポーツをすることで、生活・人生に起きる変化」をご紹介します。

①生活の充実度とスポーツ



出展：スポーツ庁『スポーツの実施状況等に関する世論調査』2019年1月

スポーツの実施頻度が多い人ほど、日常生活に充実を感じている割合が高い調査結果が出ています。ウォーキングなどの有酸素運動によって分泌される様々な脳内物質が、この結果をもたらしてくれることがわかってきました。

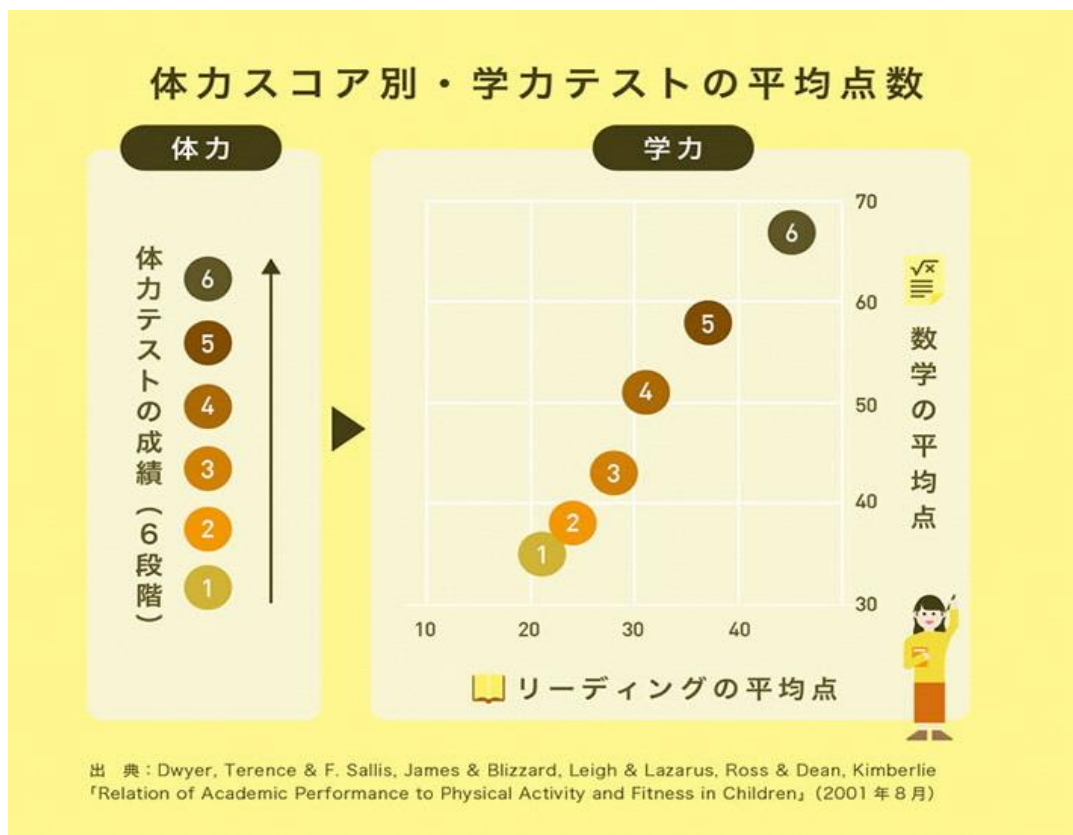
近年では、適度な運動が **BDNF**（脳由来神経栄養因子）というタンパク質の分泌を高め、これにより脳の神経の発達にもつながると言われています。また脳への影響だけでなく、ウォーキングなどの軽い運動が心身の健康につながることは運動生理学的にも実証されています。

②スポーツは心の健康にも効果的

運動の種目では、ヨガや、水泳、ジョギング、ウォーキングなど有酸素運動でどれも同じように、気分の改善と向上が観察されています。有酸素運動を続けることによって、「幸せホルモン」とも呼ばれるセロトニンなどの神経伝達物質（神経と神経で連絡を取り合う物質）が分泌され、脳の中で感情や記憶を司る部分にセロトニンが伝達すると、精神的な落ち着きが得られると言われています。

（公財）明治安田厚生事業団体力医学研究所の研究では、「余暇時間にまったく運動をしないグループに比べ、1週間に運動を2時間以上しているグループは、1年後に抑うつになるリスクが約半分に抑えられる」という調査結果があります。余暇の身体活動やスポーツが、将来の抑うつ状態の発生を抑えると報告されており、仕事上のストレスが高い人こそ余暇での運動を積極的に取入れたほうがよさそうです。

③子どもの学力とスポーツ



運動も勉強も、「頭で行うもの」という意味では同じ。むしろ運動ができる子は勉強もできるようになる、それは多くの研究で実証されているのです。

アメリカで小中学生 95 万人に行った大規模調査で、子どもたちの心肺能力や筋力・持久力・体脂肪率などの総合的な体力調査と、学力テストの成績との関連性を分析した研究では、体力調査での成績が高い子どもほど、学業成績も優秀な傾向があることが確認されています。

東京大学の深代千之教授によれば、運動では「走る」「投げる」「打つ」「跳ぶ」などのいろんな動作を覚えて脳に格納して、スポーツの場面で引き出して使うように、勉強でも、例えば数学の応用問題を解くときにいくつかの公式の中から適切なものを使って問題を解くことと同じようなこと。勉強と運動とは相関関係にあり、疫学的に双方が関係していると言えます。

④体の健康とスポーツ



「1,000歩の目安は約10分」とされていますので、いつもより歩く時間を10分～20分増やすと、ガンや糖尿病などの病気を防ぐ可能性があります。たとえば、「仕事中は1階上のトイレを使い、階段を上る癖をつけてみる」「デスクワークが疲れたら片道5分の距離を散歩してみる」といったように、生活の負担にならない程度のちょっとした工夫で「プラス1000歩」は実現可能なのです。

⑤健康寿命とスポーツ

「健康寿命」とは心身ともに健康で、介護等を必要とせず、日常生活に制限なく自立して生活できる期間のことです。健康寿命をのばして制限のある期間を縮めれば、自分の人生を自分らしく過ごせる期間が長くなります。また、介護の期間も短くなるため、医療・介護費用を削減でき、家族の負担軽減にもつながります。健康寿命をのばすには、要支援・要介護になるリスクを減らすことが大切です。要支援・要介護を引き起こす主な原因は、認知症、脳卒中などの脳血管疾患、骨折・転倒、関節疾患が大きな割合を占めます。これらの発症には加齢だけでなく、毎日の生活習慣の積み重ねが影響しています。

健康を維持・増進するにはバランスのとれた食事、十分な睡眠に加え、適度な身体活動・運動が基本となります。また、活発に体を動かすことは、様々な

病気を予防できることもわかってきました。

厚生労働省による「スマート・ライフ・プロジェクト」では、「健康寿命をのばそう！」をスローガンに①適度な運動、②適切な食事、③禁煙、④健診・検診の受診を推進し、①適度な運動においてはスポーツ庁の「**FUN+WALK PROJECT**」（歩くことをもっと楽しく、楽しいことをもっと健康的なものにする官民連携プロジェクト）と連携を行い、健康寿命をのばすことに取り組んでいます。

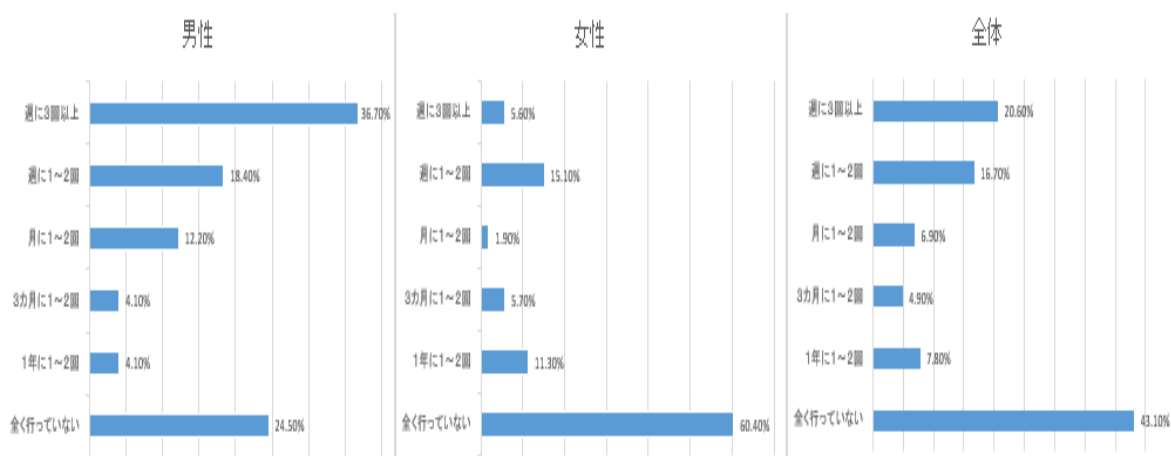
第2章 杵築市の現状と課題

杵築市の現状と課題を把握するために、一般市民と就学児童・生徒にインターネット及び、紙面回答によるアンケート調査を行い、一般市民から 102 件、就学児童・生徒から 109 件の回答がありました。また、障がいを持つ方へもスポーツへの取組状況のアンケートを行い、340 件の回答（有効）がありました。

（1）スポーツへの参加及び好意度について

一般向けアンケートにより、スポーツへの参加頻度と阻害要因を、生徒・児童向けアンケートにより、スポーツへの好意度、参加状況を調査しました。

《スポーツへの参加頻度（一般）》



性別	全く行っていない	1年に1~2回	3か月に1~2回	月に1~2回	週に1~2回	週に3回以上
男性	24.5%	4.1%	4.1%	12.2%	18.4%	36.7%
女性	60.4%	11.3%	5.7%	1.9%	15.1%	5.6%
全体	43.1%	7.8%	4.9%	6.9%	16.7%	20.6%

《スポーツをしていない理由（複数回答可）》

- ・家事や仕事が忙しい・・・25人
- ・身近に施設がない・・・7人
- ・ほかの趣味が忙しい・・・6人
- ・子供がいるので、家を空けられない・・・7人
- ・スポーツは面倒・・・5人
- ・一緒に行く仲間がない・・・5人

【その他意見】

- ・スポーツをしようと思ったことがない

- ・スポーツは嫌いではないが、取っ掛かりがなかなか難しい
- ・職員の対応、態度が悪いから使う気持ちにならない

スポーツを全く行っていない人の割合は全体の 43.1%を占め、女性については、女性全体の 60.4%と高くなっています。半面、男性は週に 3 回以上スポーツに参加している人の割合は 36.7%と女性と比較して高くなっています。

《スポーツへの好意度（児童・生徒）》

スポーツ（体育授業含む）は楽しいですか？	楽しい	つまらない
	94.5%	5.5%

《部活動やスポーツ少年などのスポーツ団体への加入状況》

部活動やスポーツ少年団などの加入状況	加入	未加入
	61.5%	38.5%

《行っている競技（複数回答可）》

サッカー16人、陸上12人、野球9人、ダンス7人、テニス6人、空手6人、水泳5人、卓球3人、剣道3人、合気道2人、バスケットボール1人

94.5%の児童・生徒はスポーツを楽しいと回答しました。笹川スポーツ財団が行った調査（子ども・青少年のスポーツライフ・データ 2019）では 78.6%が運動することを楽しいと回答しており、杵築市と参考比較すると、杵築市の調査のほうが、スポーツへの好意度は 15.9 ポイント上回っています。

また、スポーツ団体等に所属する児童・生徒は 61.5%と半数を超えており、競技も多様化していることがわかります。

《スポーツへの参加頻度（障がいのある方）》

	全く行っていない	1年に1～2回	3カ月に1～2回	月に1～2回	週に1～2回	週に3回以上
男女全体	77.1%	4.7%	0.9%	3.5%	8.2%	5.6%

《スポーツをしていない理由（障がいのある方 複数回答可）》

- ・できる競技がない・・・81人
- ・身近に施設がない・・・40人
- ・スポーツは面倒・・・36人
- ・一緒に行く仲間がない・・・33人
- ・家事や仕事が忙しい・・・29人
- ・どのような競技が行えるか知らない・・・22人
- ・ほかの趣味で忙しい・・・22人
- ・子供がいるので不在にできない・・・2人

【その他意見】

- ・身体的にできない
- ・観戦が好みで、することはない
- ・スポーツに興味がない 等

全く運動をしていない人の割合が健常者の43.1%に比べ、77.1%と大幅に高くなっており、できる競技がないなど、日常的にスポーツに親しむことができない状況であることがわかります。

(2) スポーツ施設について

杵築市には現在、20のスポーツ施設があります(下表)。どの施設も建築されてから年数が経っていることから、老朽化が進み、維持補修にかかる費用が増えている状況です。また、施設によっては利用者が極端に少なく、使用料収入が低迷していることから、収支のバランスは悪くなっています。

また、文化体育館以外は、段差があり、玄関・通路やトイレに手すりがないなど、誰もが使いやすい施設にはなっていません。『誰もがスポーツに親しむことができるという社会の構築』という目標を達成する上で、解決すべき課題となっています。

《施設一覧及び年間利用者数》

番号	施設名	主な施設概要	建築年	R 2 年間 利用者人数	R 2 収入	R 2 支出
1	文化体育館	アリーナ 1,728 m ²	H19	37,518 人	4,279	30,595
2	勤労者体育センター	アリーナ 888 m ²	S57	23,324 人	315	2,481
3	B & G 海洋センター体 育館	アリーナ 726 m ²	S56	59,727 人	580	4,136
4	市営テニスコート	砂入り人工芝 3 面 ナイター照明あり	S54		1,106	
5	総合運動場	300mトラック 6 レーン	S63		98	
6	山香体育館	アリーナ 739 m ²	S56	12,967 人	110	3,693
7	立石体育館	アリーナ 508 m ²	S61		29	
8	山浦体育館	アリーナ 446 m ²	S63		35	
9	向野体育館	アリーナ 461 m ²	S61		1	
10	東山香体育館	アリーナ 448 m ²	H6		60	
11	上体育館	アリーナ 503 m ²	S43		71	
12	田原体育館	アリーナ 442 m ²	S61	269 人	12	545

13	朝田体育館	アリーナ 447 m ²	H4		2	
14	杵築弓道場				24	4
15	山香弓道場				24	41
16	市営野球場	両翼 87m センター106m ナイター照明あり	S52	5,658 人	327	1,153
17	海浜夢公園テニスコート	砂入り人工芝 2 面	H24	5,124 人	158	13
18	市営サッカー場	人工芝 1 面 天然芝半面	H23	45,178 人	1,741	7,355
19	山香グラウンド	400m1 レーン ナイター照明あり		3,100 人	68	382
20	山香ゲートボール場	6 コート				174

(単位：千円)

《スポーツ施設の満足度調査（一般）》

杵築市のスポーツ施設 に満足していますか？	満足している	満足していない
	65.7%	34.3%

《満足していない理由（一般 複数回答可）》

- ・身近に施設がない・・・13 人
- ・やりたい競技に対応していない・・・7 人
- ・施設が古い・・・6 人
- ・施設の性能が低い・・・5 人
- ・開館時間が短い・・・3 人
- ・料金が安い・・・2 人
- ・予約が取れない・・・2 人

【その他意見】

- ・シャワー室が汚い
- ・プールが週 2 日間休館であることが残念
- ・陸上競技場に野球ボールが飛んできて危険
- ・プールとジムが遠い。一か所にスポーツ施設が集まってほしい
- ・サウナと温泉を完備してほしい

(3) 競技スポーツで躍動する選手たち

杵築市では、地区大会を勝ち抜き、九州大会や全国大会に出る選手やチームに対して、経費の一部を補助しています。上位大会の出場は選手たちのモチベーションになるとともに、より高いレベルの大会への参加は競技力の向上につながるようになります。

《文化・スポーツ奨励金支出実績》

令和4年度	令和3年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
17件	20件	35件	29件	37件

第3章 これからのスポーツ振興施策

これまで、第1章ではスポーツの意義、第2章で杵築市における現状と課題について取り上げました。第3章では前章の分析をもとに、これからのスポーツ振興施策として『(1)スポーツへの参加率向上』、『(2)施設の整備・維持管理』、『(3)競技スポーツの推進』の3つを政策目標として、それぞれ、目標達成に向けた具体的施策を展開します。

(1) スポーツへの参加率向上

スポーツを行い、肉体的にも精神的にも健康な状態を保つために、スポーツへの参加率向上を図ります。

[10年後のスポーツへの具体的参加率目標について]

《ほとんどスポーツを行っていない人の群》（一般男女合計）

	全く行っていない	1年に1～2回	3カ月に1～2回	合計	↓ down	目標
全体	43.1%	7.8%	4.9%	55.8%		

《定期的にスポーツを行っている人の群》（一般男女合計）

	月に1～2回	週に1～2回	週に3回以上	合計	↑ UP	目標
全体	6.9%	16.7%	20.6%	44.2%		

《ほとんどスポーツを行っていない人の群》を30%に、《定期的にスポーツを行っている人の群》を70%に目標設定します。アンケート結果（一般男性）では《定期的にスポーツを行っている人の群》は67.3%になることから、目標達成は十分可能な数値であると考えます。目標数値の達成には、女性のスポーツ参加率の向上が鍵になってきます。

[具体的施策]

①総合型スポーツクラブとの連携及び、新規団体の育成

現在、杵築市には総合型スポーツクラブとして『NPO法人 虹』が活動を行っています。スポーツサークルの運営には会員募集や会費の徴収、練習場所の確保など、煩雑な点が多いことから、総合型スポーツクラブに加盟を促すことで、新規団体の育成を図ります。新規団体が総合型スポーツクラブに加盟す

ることにより、サークル・教室数も増え、スポーツの裾野が広がることになり、市民の選択肢も増えることから、スポーツへの参加意欲の向上へつながります。

加えて、同クラブは幼児向けのスポーツ教室を開講しており、幼少期のスポーツ体験の受け皿として大事な役割を担ってくれています。幼少期からスポーツを行うことで、運動への好意感が生まれ、成年期でのスポーツ参加へつながります。また、5歳から8歳頃の期間はプレゴールデンエイジ期間、9歳から12歳の期間はゴールデンエイジ期間として、一生に一度だけ訪れる、運動能力が飛躍的に伸びる時期でもあることから、幼少期のスポーツ参加は生涯を通じて、非常に大事になっています。市としては、同クラブに、現在の活動を維持・拡大してもらえるよう、積極的に支援を行います。



《陸上教室の様子》

②スポーツ少年団の活性化支援

杵築市におけるスポーツ少年団加入団体数は、令和4年度末時点で21団体となっています。スポーツ少年団の意義である、『スポーツを通じた青少年の健全育成』を推進するため、各種研修会の開催や、競技を超えた交流会や駅伝大会の開催により、スポーツ少年団活動の活性化支援を行います。また、未加入の社会体育団体に対しても、加入を積極的に促します。

③スポーツ関係団体との連携

現在、スポーツに参加していない人でも、以前にスポーツを行っていた人は多いと考えられます。アンケートの結果では、スポーツをしていない人のうち、『一緒にする仲間がない』が9.4%を占めていることから、スポーツをする場の提供があれば、スポーツ参加へのハードルは下がります。杵築市スポーツ協会加盟の競技団体と協力し、『どこでどのようなスポーツが行われているか』という情報を集約し、スポーツをする場の情報提供を行います。

④市民主役の各種大会開催

市民スポーツ大会や、健康マラソン大会、支部対抗駅伝など、市民誰もが参加できる大会を開催し、世代や性別、競技レベルを超えた、幅広い人たちにスポーツの参加を促します。



《健康マラソンの様子》

⑤子育て世代のスポーツ参加率向上

子育て期間中はどうしても、家事・育児に追われ、自由な時間が作りづらくなりがちです。限られた時間の中で、スポーツに参加してもらえよう、スポーツの意義や身体に与える好影響のPRを継続的に行い、進んでスポーツ活動を行ってもらえよう、啓発活動を行います。しかし、肉体的負荷の高いスポーツは参加のハードルも高く、継続することも難しいことから、短時間に手軽にできるスポーツの推進が必要です。例えば、ヨガやウォーキングなど、体に負担がかかりにくく、特に女性に人気のあるスポーツを推進していきます。



《ヨガ教室の様子》

⑥スポーツ推進委員との連携

スポーツ推進委員はスポーツ基本法に基づき、スポーツの推進を目的として、住民に対しスポーツの実技指導や助言を行う方で、市教育委員会が委嘱しています。地域の実情を知るスポーツ推進委員と連携を取り、これまでスポーツに取り組むことがなかった方たちへ、スポーツの参加を促します。

現在、市では【出前講座：やってみよう軽スポーツ】を実施しており、スポーツ推進委員を講師として、誰もが取り組みやすい軽スポーツの普及に取り組んでいます。これからは依頼を待つだけでなく、積極的に地域に出向き、障がいがある、高齢であるためスポーツの参加が難しいなど、スポーツをしたくてもできない状況の方に対して、取り組みやすいスポーツの紹介や、軽スポーツのイベントを地域単位で開催するなど、積極的に普及活動を行います。



《スポーツ推進委員と連携し、軽スポーツ大会を開催》

⑦障がい者スポーツの推進

東京 2020 パラリンピックの開催は多くの人に感動を与えるとともに、障がい者スポーツの認知度向上につながりました。ボッチャやフライングディスクをはじめとした障がい者スポーツ競技は障がいの有無や年齢、性別にかかわらず、多くの人に参加できるスポーツです。福祉事務所と連携を取り、誰もが参加できるスポーツの実現のため、競技の講習会や市民レベルの交流大会を開き、更なる認知度の向上、競技の裾野拡大を図ります。



《ボッチャ競技》

(2) 施設の整備・適正管理

施設の老朽化に伴い改修や更新を必要とする施設が増えてきます。すべてのスポーツ施設を現状のまま維持することは困難であることから、施設の改修・更新にあたっては、将来費用の発生を抑制するため、利用できるスポーツの種類等、機能別に施設の集約を進める必要があります。

特に山香・大田地域の体育館は統合以前の小・中学校の体育館を活用しており、本来、スポーツ目的で建設された施設ではありません。杵築地域の体育館と比較すると、山香体育館、立石体育館以外は規模も小さく、スポーツ施設として使い勝手がよくないことから、利用率は低迷しています。すべての施設を画一的に整備・維持するのではなく、各施設の特徴に合わせ、種目を絞った整備をすることで、杵築市全体で練習可能なスポーツも増え、スポーツへの参加者の増加及び、及び、競技力の向上につながります。

また、近年、スポーツクライミングや、スケートボード、ブレイキン（ブレイクダンス）などの新しいスポーツがオリンピック競技になるなど、スポーツの多様化が進んでいます。既存の競技施設の整備だけでなく、新たなスポーツの施設整備への需要を見極めることも必要となります。

今後は長期的な視点に立ち、計画的に施設の再編及び、バリアフリー化を進めるとともに、整備にあたっては建設費のみならず、竣工後のライフサイクルコストにも目を向け、維持管理コストの縮減を図ります。

加えて、コロナ禍においては、施設の十分な換気や消毒などが求められることから、換気窓の網戸設置や、消毒用アルコール・除菌用タオルの常時準備などを行います。

〔具体的施策〕

①施設整備計画の作成

各施設の運営にあたり、スポーツ協会所属の競技部からだけでなく、施設一般利用者からの施設整備や備品整備の要望が随時あります。

しかし、全ての要望に応えることは、厳しいと言わざるを得ません。上位計画である杵築市公共施設総合管理計画の趣旨に従い、個別施設計画と整合性をとったうえで、施設整備の優先順位を付け、スポーツ施設整備計画を作成。計画に沿った施設整備を行っていきます。

②使用料の適正化

各施設、経年劣化による修繕費に加え、電気代や燃料代の値上がりにより、年々、維持経費が増えています。基本的に施設の使用料は各々の維持経費に充当しているので、収入が少ない施設は赤字幅が大きくなります。使用料の適正化を行うことにより、施設利用提供サービスを安定的に行うことができるようになります。

(3) 競技スポーツの推進（トップアスリートの支援）

スポーツは楽しむだけでなく、『極める』ことも非常に重要です。ラグビーワールドカップ 2019 や東京オリンピック 2020 の開催により、世界のトッププレーを身近に感じることができました。トップアスリートの存在は、競技のレベルを引き上げるとともに、競技への興味や関心を高めることへつながります。本市においても、競技スポーツの推進を行うとともに、トップアスリートの育成を行っていきます。

〔具体的施策〕

① 競技部の活性化支援

杵築市スポーツ協会には 29 の競技部が所属しています。各競技部では選手個々の練習だけでなく、競技の普及活動や、選手の育成など、活動は多岐に及びます。市における競技の隆盛は各競技部の活動による影響が大きいことから、競技部の活動円滑、且つ永続的な組織運営してもらえよう支援を行います。また、競技技術の最先端を取り込むために競技の専門家等を招へいた場合や、競技力の底上げを図るための強化合宿の開催などへの支援を積極的に行い、トップアスリートの育成を図ります。

② 大会への出場費支援

県を代表するトップアスリート、強豪チームともなれば、遠征費や大会参加など、費用が多額にかかります。経済的不安を少しでも和らげ、競技に集中して取り組めるよう、県内の地方大会を勝ち抜き、九州大会や全国大会などの上部大会への出場する個人・チームに対し旅費等の一部を補助し、大会出場の負担を軽減します。